

## 平成27年における

# クレーン等による死亡災害発生状況

### 1. 平成27年の死亡災害発生状況

平成27年における全産業の労働災害による死亡者数は972人であり、前年の1,057人と比較して85人（対前年比8.0%）減少した。これを業種別にみると、建設業では327人と前年と比較して50人（対前年比13.3%）減少し、製造業では160人と前年と比較して20人（対前年比11.1%）減少した（図1参照）。

### 2. クレーン等による死亡災害の推移

平成27年におけるクレーン等に関する労働災害による全産業の死亡者数は66人で、平成26年に比べ14人（対前年比26.9%）の増加となっ

た（図2参照）。

業種別に見ると、建設業が最も多く30人（クレーン等に関する労働災害による死亡者数の45.5%）、次いで製造業20人（同30.3%）、陸上貨物運送事業8人（同12.1%）、その他の事業7人（同10.6%）となっている。

前年に比べ、建設業では5人、製造業は4人、陸上貨物運送事業で3人、その他の事業で1人、港湾荷役業は1人それぞれ増加した。なお、減少した業種はなかった（第1表参照）。

### 3. 業種別・機種別発生状況

平成27年のクレーン等に関する死亡災害発生状況を業種別・機種別にまとめたものが第1表である。

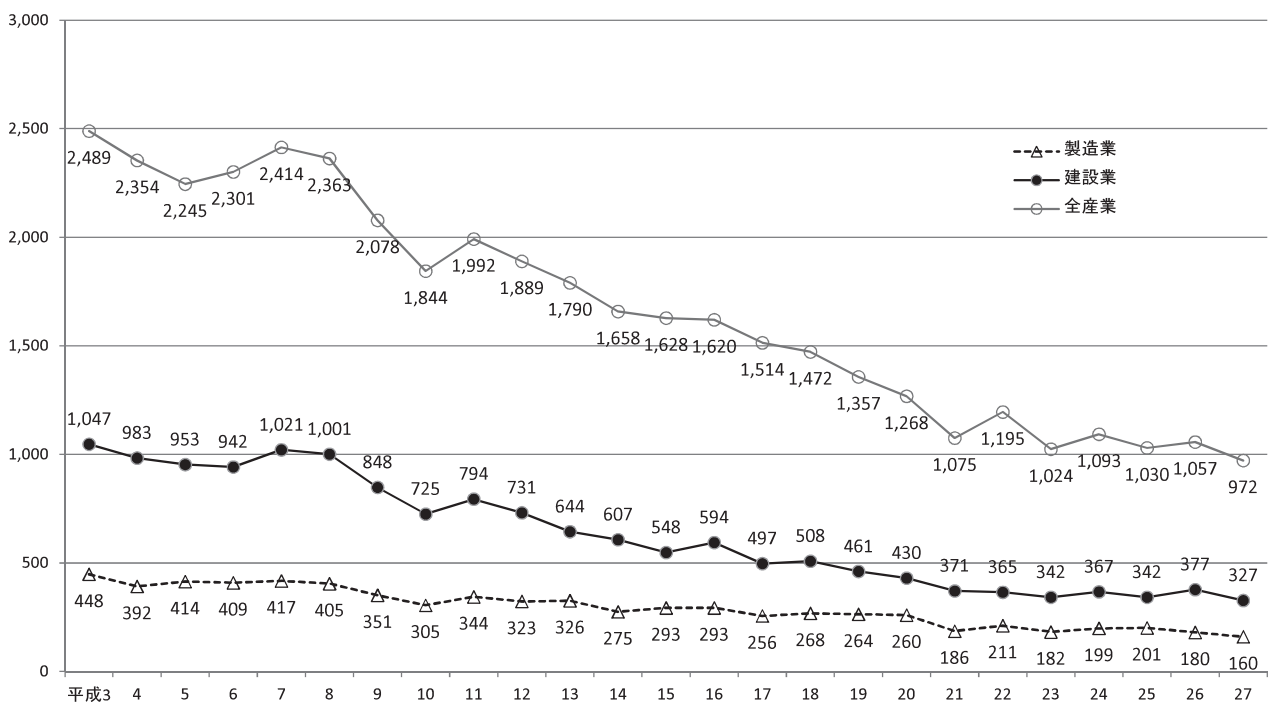


図1 労働災害死亡者数の推移

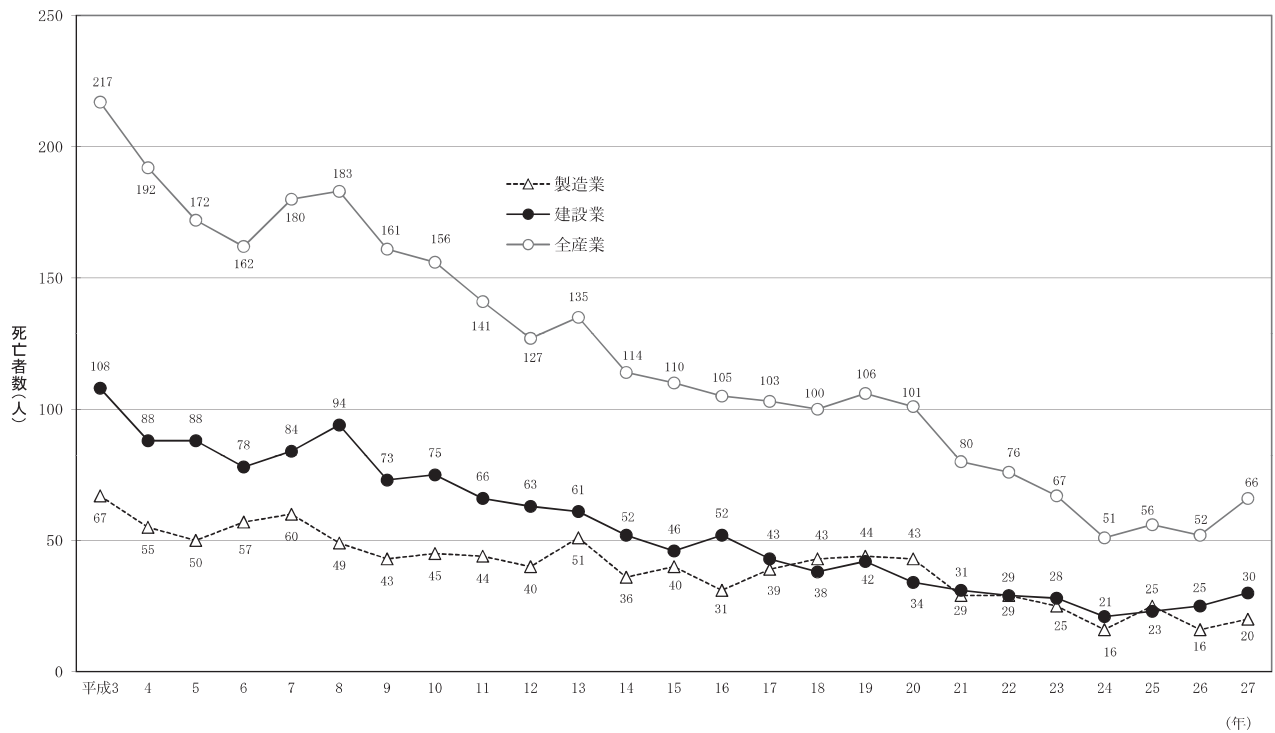


図2 クレーン等による死亡災害の推移

表1 クレーン等による業種別・機種別死亡災害発生状況（平成27年・死亡者数）

業種	クレーン						移動式クレーン							デリック	エレベーター	簡易リフト	建設用リフト	ゴンドラ	合計			
	天井クレーン	橋形クレーン	ジブクレーン	テールハ	スタッククレーン	ケーブルクレーン	小計	トラッククレーン	車両積載形	トラクタクレーン	ホイールクレーン	クローラクレーン	浮きクレーン							不明	小計	
製造業	9	4	1				14		1					1	2		2	2				20
鉱業							0								0							0
建設業	1	1				1	3		8	7	9			1	25		1	1				30
交通運輸事業							0								0							0
陸上貨物運搬事業	3						3		3	2					5							8
港湾荷役業							0	1							1							1
その他の事業					1		1		2		1				3		2	1				7
合計	13	5	1	0	1	1	21	1	14	9	10	0	2	36	0	5	4	0	0	0	66	

機種別ではクレーンによる死亡災害が21人（クレーン等に関する死亡災害全体の31.8%）、移動式クレーンによる災害が36人（同54.5%）で、両者合わせて全体の86.4%を占め、次いで、エレベーターによるものが5人（同7.6%）、簡易リフトによるもの4人（同6.1%）となっている。

これについて前年と比較すると、クレーンによるものが1人減少し、移動式クレーンによるものは11人増加した。エレベーターによるもの及び簡易リフトによるものはそれぞれ2人増加となった。なお、建設用リフトによるもの、ゴンドラによるものは昨年に続き0であった。

機種細分別では、車両積載形トラッククレーンによるものが14人と最も多く、次いで天井クレーンによるものが13人、クローラクレーン（クレーン機能付きドラグショベルを含む。）が10人、ホイールクレーンによるものが9人、橋形クレーンによるもの5人、そのほかはジブクレーン、スタッカークレーン、ケーブルクレーン及びトラッククレーンによるものがそれぞれ1人となっている。

これについて前年と比べると、クレーンでは天井クレーンは2人の減少、橋形クレーンによるものは1人増加し、ジブクレーン、スタッカークレーン、ケーブルクレーンによるものが増減なしとなっている。一方、移動式クレーンでは、車両積載形トラッククレーンによるものは3人増加し、クローラクレーンによるものが7人増加している一方、浮きクレーンによるものが1人減少している。

業種との関係を見ると、移動式クレーンによるものは建設業が25人（移動式クレーンに関する死亡災害の69.4%）と最も多く、クレーンによるものは製造業が14人（クレーンに関する死亡災害の66.7%）と最も多くなっている。

これらについて前年と比べてみると、製造業では、クレーンについては、橋形クレーンによるものが2人増加、ジブクレーンによるものは1人増加し、天井クレーンによるものは1人減少した。

また、スタッカークレーンによるものは1人減少して0となった。建設業では、移動式ク

レーンについては、クローラクレーンによるものが6人、車両積載形トラッククレーンによるものが1人それぞれ増加となっている。

#### 4. 現象別・機種別発生状況

平成27年のクレーン等に関する死亡災害を災害現象別・機種別にまとめたものが**第2表**である。

災害現象別では、多い順に、落下によるもの24人（クレーン等による死亡災害全体の36.4%）、挟圧によるものを原因とするもの19人（同28.8%）、墜落によるもの10人（同15.2%）、機体・構造部分が折損・倒壊・転倒したことによるものが9人（同13.6%）、つり荷・つり具が激突したものは2人、感電が1人となっている。

これについて前年と比べると、挟圧によるものは9人、落下によるものが8人、機体・構造部分が折損・倒壊・転倒によるものも5人とそれぞれ大幅な増加を示しており、感電も1人の増加となっている。一方、墜落は3人の減少を示している。

現象別に災害の内容をさらに詳しく見ると、次のとおりである。

##### (1) 落下による災害

落下による災害の中では、つり荷の落下によるものが15人（落下による死亡災害全体の62.5%）で依然として大きな割合を占めている。

**第3表**には落下による災害及び機体等の折損・倒壊・転倒による災害をさらに詳細に分類している。前年と比べると、クレーンのフック等からつり荷が外れたことによるものが4人、玉掛けワイヤロープ等からつり荷が外れたことによるものが3人、クレーンのフック等から玉掛けワイヤロープ等が外れたことによるものが1人のそれぞれ増加となる一方、玉掛けワイヤロープ等の切断によるものが3人、巻上げワイヤロープ等の切断によるものが1人減少し、落下全体では8人の大幅な増加となった。

表2 クレーン等による現象別・機種別死亡災害発生状況（平成27年・死亡者数）

現象	機種	クレーン						移動式クレーン						エレベーター	簡易リフト	建設用リフト	ゴンドラ	合計			
		天井クレーン	橋形クレーン	ジブクレーン	テールハ	スタッククレーン	ケーブルクレーン	小計	トラッククレーン	車両積載クレーン	ホイールクレーン	クローラクレーン	浮きクレーン						不明	小計	
落下	つり荷の落下によるもの	5	1	1			7		1	5	2			8					15		
	機体の落下によるもの						0							0					0		
	搬器の落下によるもの						0							0		3			3		
	ジブの落下によるもの						0							0					0		
	積み荷等荷の落下によるもの	1	3				4							0					4		
	その他の						0						1	1	1				2		
	小計	6	4	1	0	0	0	11	0	1	5	2	0	1	9	0	1	3	0	0	24
つり荷、つり具が激突したもの		1					1			1			1						2		
狭圧	つり具、つり荷と床上の物体によるもの	1					1		1	1			2						3		
	つり荷の転倒によるもの						0						0						0		
	床上の物体の転倒によるもの	3					3						0						3		
	機体(搬器)と他の構造物によるもの					1	1		1	1			2	2	1				6		
	機体にひかれたもの						0						0						0		
	機体に接触したもの	1					1	1	1	1	1		4						5		
	その他の						0		1	1			2						2		
	小計	5	0	0	0	1	0	6	1	4	1	4	0	0	10	0	2	1	0	0	19
墜落	機体(搬器)からによるもの		1				1		2				2						3		
	つり荷に押されたもの						0		1	2		1	4						4		
	機体(搬器)と共に墜落したもの						0						0						0		
	作業床等から墜落したもの	1					1						0	2					3		
	その他の						0						0						0		
	小計	1	1	0	0	0	0	2	0	3	2	0	0	1	6	0	2	0	0	0	10
機体、構造部分が折損、倒壊、転倒したもの							1	1	4	1	3		8						9		
感電							0		1				1						1		
その他の							0		1				1						1		
合計		13	5	1	0	1	1	21	1	14	9	10	0	2	36	0	5	4	0	0	66

表3 落下及び機体等の折損・倒壊・転倒による死亡災害の内訳（平成27年・死亡者数）

現象		機 種	クレーン					移動式クレーン					デ リ ッ ク	エ レ ベ ー タ ー	簡 易 リ フ ト	建 設 用 リ フ ト	ゴ ン ド ラ	合 計		
			天 井 ク レ ー ン	橋 形 ク レ ー ン	ジ ブ ク レ ー ン	テ ル ハ ン	ス タ ッ カ ー ク レ ー ン	ケ ー ブ ル ク レ ー ン	小 計	ト ラ ッ ク ク レ ー ン	車 両 積 載 形	ト ラ ッ ク ク レ ー ン							ホ イ ー ル ク レ ー ン	ク ロ ー ラ ク レ ー ン
落 下	つり荷の落下	ワイヤロープ等の切断						0						0					0	
		ワイヤロープ等の切断	1					1			1				1					2
		クレーンのフック等から玉掛けワイヤロープ等が外れたことによるもの						0		1	1	1		3						3
		玉掛けワイヤロープ等からつり荷が外れたことによるもの	2	1				3			2			2						5
		クレーンのフック等からつり荷が外れたことによるもの	2		1			3			1			1						4
		クレーンのフック等が破損したことによるもの						0						0						0
		その他						0					1	1						1
		小計	5	1	1	0	0	0	7	0	1	5	2	0	8	0	0	0	0	15
		上記以外	1	3					4					1	1		1	3		9
		小計	6	4	1	0	0	0	11	0	1	5	2	1	9	0	1	3	0	24
折 損 ・ 倒 壊 ・ 転 倒		ジブが折損、倒壊したもの						0						0					0	
		支柱、脚等が倒壊したもの						1	1					0					1	
		機体が転倒したもの						0		4	1	3		8					8	
		その他						0						0						0
	小計	0	0	0	0	0	1	1	0	4	1	3	0	8	0	0	0	0	9	

(2) 挟圧災害

挟圧災害では、第2表に示すように、つり荷の転倒によるものが1人の減少となったが、機体の接触によるものが5人の増加、床上の物体の転倒によるものが3人の増加、つり具・つり荷と床上の物体によるものが1人の増加となるなど挟圧の合計では19人となり、前年の10人に比べ9人の大幅な増加となった。

(3) 墜落による災害

墜落による災害では、つり荷に押されたもの4人、機体（搬器）からによるもの及び作業床等から墜落したものがそれぞれ3人となった。墜落全体としては前年の13人から10人と3人減少した。

(4) 機体等の折損・倒壊・転倒による災害

第2表に示すようにこの種の災害によるものは9人である。その内訳は第3表に示すよう

に、移動式クレーンが8人、ケーブルクレーンによるものが1人となっている。前年と比べると車両積載形クレーン及びクローラクレーンに係るものが2人増加するなど全体では5人の増加であった。

### (5) つり荷等の激突による災害

第2表に示すように、つり荷・つり具が激突したことによるものは7人から2人に大幅な減少となった。

## 5. 能力別・機種別発生状況

平成27年のクレーン等に係る死亡災害を能力別・機種別にまとめたものが**第4表**である。

全機種合計では、3t未満の能力のものが34人（クレーン等の災害全体の51.5%）と大きな割合を占めている。この区分の中では、車両積載形トラッククレーンが11人で最も多く、次いで、クローラクレーンが7人、天井クレーンが5人となっている。エレベーター、簡易リフトはすべてこの能力のものであった。

ほかには、10t以上20t未満が7人、30t以上が6人、20t以上30t未満が5人などとなっている。

表4 クレーン等による機種別・能力別死亡災害発生状況（平成27年・死亡者数）

機 種	クレーン							移動式クレーン						デ リ ク	エ レ ベ ー タ	簡 易 リ フ ト	建 設 用 リ フ ト	ゴ ン ド ラ	合 計	
	天 井 ク レ ー ン	橋 形 ク レ ー ン	ジ ブ ク レ ー ン	テ ル ハ	ス タ ッ カ ー ク レ ー ン	ケ ー ブ ル ク レ ー ン	小 計	ト ラ ッ ク ク レ ー ン	車 両 積 載 形	ト ラ ッ ク ク レ ー ン	ホ イ ー ル ク レ ー ン	ク ロ ー ラ ク レ ー ン	浮 き ク レ ー ン							不 明
能力内訳	1 t 未 満				1		1				3			3		2	2			8
	1 t 以上 3 t 未 満	5	1			1	7		11		4			15		3	1			26
	3 t 以上 5 t 未 満	1					1			2	1			3						4
	5 t 以上 10 t 未 満	2	2				4							0						4
	10 t 以上 20 t 未 満	3					3			3			1	4						7
	20 t 以上 30 t 未 満	2	1				3			2				2						5
	30 t 以 上		1	1			2	1		2	1			4						6
	不 明						0		3		1		1	5			1			6
合 計	13	5	1	0	1	1	21	1	14	9	10	0	2	36	0	5	4	0	0	66